

第4章 文久二年岩出山家中の伊勢京都道中

宮田 尚夫

一 はじめに

「岩出山古文書を読む会」が、平成二四年度にテキストに使用した岩出山伊達家中国井十郎左衛門喜哉による「国井家由緒書上并代々記録」（以下「国井家記録」）の中に、文久二（一八六二）年の伊勢参詣の旅の記述があった。七月二九日に岩出山を発ち、一月二日に帰着した一二一日間に及ぶ長期の旅行である。これに対し、近年、同じ岩出山伊達家中である中嶋家の文書二九点が公開され、その中に、国井十郎左衛門と同行した中嶋桂五郎資房の手による道中の経費を記録した横帳一冊が含まれていた。この記録には題箋がなかったため、仮に「伊勢京都道中手扣」（以下「手扣」と名付けた。一つの旅に対して二つの異なる記録がそろったわけである。そこで本稿では、国井十郎左衛門が概略的に記した旅を「手扣」でより具体化し、江戸時代の旅の様子を明らかにしていきたい。なお、国井家と「国井家記録」については本書荒武論文を参照願ひ、本稿の資料としては「手扣」を示し、併せて中嶋家についても記述する。また「手扣」は読み取りやすくするために、その記述を表形式にし、漢数字はできるだけ算用数字とした。

二 伊勢参詣

弘化三（一八四六）年に一三歳で家督を継いだ岩出山伊達家一〇代当主邦直には三人の女子が産まれたが、男子の出生がなく伊勢神宮へ祈願したところ、文久二年六月、大力（後の一代基理）が誕生した。国井十郎左衛門、中嶋桂五郎の旅は、邦直に代わる御礼の参詣である。また、この旅には、京都の公家、冷泉家への使いの役目もあつた。従つてこの旅は一般的な伊勢参詣ではなく、主命による公用の旅である。なお、文久二年は、一月に坂下門外の変、二月家茂和宮成婚、四月には寺田屋騒動があり、明治維新を目前にして政情が大きく動いていた年である。

江戸時代は、平和の訪れと共に旅の安全性が高まり、街道や宿場などの交通網が整備され、また旅の情報も多く出版されて利便性も高まつた。その中で、寺社参詣は領外への移動規制も緩やかだったので、庶民による伊勢参りなど藩内外の寺社巡りが盛んに行われるようになった（「石巻の歴史二」）。そのため、道中記など旅の記録も数多く残されるようになった。岩出山にも、文化一四（一八一七）年平右衛門の伊勢参り（「千葉家文書」と嘉永五（一八五二）年高橋市左衛門の伊勢参り（「岩出山町史文書資料八」以下「町史文書資料八」）の旅日記が残されている。どちらの旅も伊勢だけではなく京都、奈良、大坂など各地の名所旧跡を巡り、四国の金比羅宮まで脚を伸ばしている。明治に入つても一〇（一八七七）年には横町染屋大内喜右衛門一行九名が伊勢参りをしている（旧「岩出山町史上巻」以下「旧町史上」）。全国的に庶民の伊勢道中記は数多く残されているが、武士の公用による伊勢参詣の記録は少ないようである。

代参の正使は村上七右衛門である。村上家は岩出山伊達家初代当主宗泰の「附臣の家臣」に村上大学之助がおり（「岩出山町史通史編上巻」以下「町史上」、草創期からの家臣であった。知行高一貫七〇四文、二番座で（「町史文書資料八」、副使の国井十郎左衛門より知行高は少ないが、家格は上位である。

副使は国井十郎左衛門で、知行高二貫三三三文である。国井家の初代は八郎左衛門で、宗泰の懷守であり岩出山城の城代であった山岡志摩から宗泰に「指上」られ「御給主組」同様に奉公した。その後侍通に取り立てられ、十郎左衛門まで九代を数えている。十郎左衛門は文化九（一八一二）年生まれで伊勢参詣の時は五〇歳である。祐筆・書物方系統の役職を歩み、代参時の職は檢地上廻り・上郷村役であった。屋敷は岩下小路に構えていた。十郎左衛門は、この後慶応四（一八六八）年の戊辰戦争では秋田の戦いに従軍し、維新後は家塾を開いて明治六（一八七三）には水沢県学区取締となっている（「旧町史下」）。

中嶋桂五郎は中嶋家（後述）の九代目に当たり、嘉永七（一八五四）年に八代目十左衛門から代替わりをした。伊勢代参では「勘定処」から帰着祝いを受けており（表11）、この時は勘定処を含む出入関係の役職にあったと推測される。桂五郎はその役職から旅では経理を担当したのではないだろうか。桂五郎も秋田の戦いに従軍している。また、明治四（一八七二）年には北海道第一次移住者として単身当別へ行っているが、その後岩出山へ戻っている。移住時は四一歳で（「旧町史上」、伊勢代参の時は三二歳ということになる。

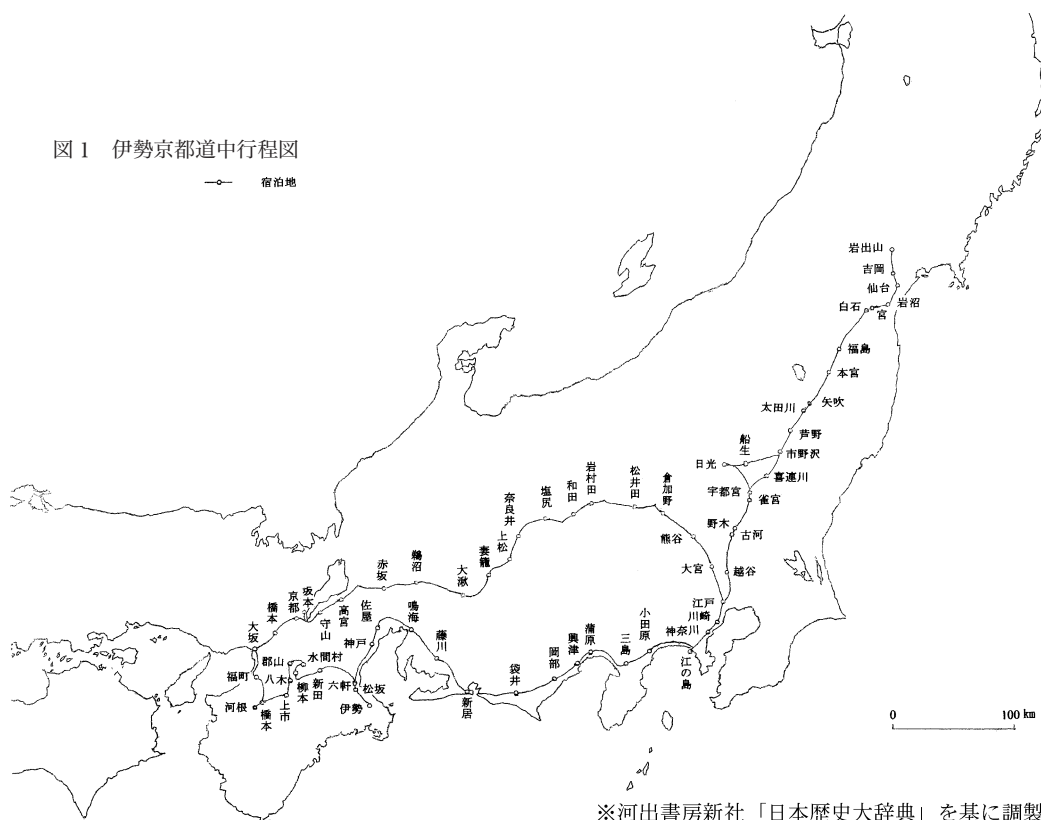
旅には正使、副使、中嶋桂五郎の他に、上一栗村玄卜、中町太右衛門夫婦、僕二人が同道している。玄卜は医師である。中町太右衛門夫婦の同道の事情は分からない。

三 行程

国井十郎左衛門は、七月二二日に「奥方御座敷」に召し出され「邦直君并御惣容（家族）様」列席の場で、鶴の料理で酒を、「邦直君御母公」「大御前様」「御前様」から盃と鼻紙料として金二歩を頂戴した。この宴には、当然村上七右衛門、中嶋桂五郎も同席したものと思われる。

以下、主に表1を基に旅の行程をみていく。

七月二九日、桂五郎は岩出山出発を前に旅の安全祈願のため塩釜神社への代参を依頼したり、旅行用品を買ったりしている。この日は吉岡に泊まった。翌八月一日、仙台に着き、岩出山伊達家の仙台屋敷（片平丁北目町南角、「町史上」）に逗留した。六日、仙台を發ち奥州街道を上って、一二日に喜連川まで来たところで、体調不良であろうか、桂五郎が薬を買い求めており、ここで二泊している。一七日、江戸に着いた。仙台、江戸間九二里三〇町を喜連川の一日を除くと一日で歩いたことになる。武士の公用の旅は一日平均一〇里ほどが基準とされていた（「みちのく街道史」）ので、一日平均約八里一五町はややゆつくりということになる。因みに参勤交代の仙台、江戸間は通常八日である。江戸では馬喰町の荻



豆屋に逗留し、旅籠代一四泊分を前払いした。この長逗留の目的は分からない。その内に七右衛門が病氣になり、八月三〇日まで菰豆屋に滞在した後、七右衛門は赤坂に借家をして移った。表11では菰豆屋に滞在したのは村上、国井、中嶋、田中、平五郎、留蔵、左善坊となっている。田中と左善坊が誰なのかは分からないが、平五郎、留蔵は僕であろう。閏八月一日以降は麻布で賄いをしてもらっている。

江戸に二九泊し、閏八月一六日、麻布永坂町を発った。中山道を通り、二〇日に岩村田に來たところで、また誰かが体調を崩したのであろうか二泊した。九月三日は近江八景を見渡しながら坂本に回った。翌四日は比叡山に参詣し、さらに清水寺に参拝して宿に入つたが、五日に宿を替えている。京都では旅の使命の一つである冷泉家に出向いた。冷泉家は、岩出山伊達家三代宗親、四代村泰の妻の実家であり、以来、和歌入門、文通、季節の贈答などを行つて交際を続けていた（『町史上』『本書菊地論文』）。ここではお茶をいただき、御詠歌短冊を二枚ずつ頂戴した。その後、六角堂をはじめ名所旧跡を見物し、買い物をしている。京都は一日に出発して橋本に泊まり、翌日は舟で淀川を下つて大坂に出た。大坂では二日間を芝居見物や買い物に費やした。

一五日に大坂を出、和泉の福町を経て、一六日は高野山の麓の河根に宿をとつた。高野山参詣の記録はないが、翌日は河根から約二里しか離れていない橋本に宿をとっているので参詣は明らかである。また、一八日の宿は奈良には遠回りの上市なので一九日には吉野にも回っていると思われる。二〇日、郡山に至るまでも道々奈良の名所旧跡を訪れたであろう。二一日は水間村の桜井文龍を訪れている。文龍は十郎左衛門の姉の子、つまり甥にあたる。儒者で經史詩文を学び、薬師院の法橋（僧の位）の世話で興福寺塔頭大乘院門

跡院主（代々摂政関白家より入室）に侍講した。余暇には興福寺、東大寺の僧や付近の士庶に教授して門弟千余人を抱え、維新後は奈良師範学校の教官になった人物である（『仙臺人名大辞書』）。二一日、村上、国井、中嶋は文龍方に泊まって歓待を受け、同人の案内で所々見物をした。また、大乘院宮の庭や座敷を拝見し、その上文龍に頼んで大乘院宮の富士峯の画を頂戴することになり、そのため十郎左衛門が残ることになった。七右衛門と桂五郎は二二日に柳本に泊まり、二三日には初瀬街道（初瀬名張越）を伊勢に向かった。二五日、伊勢内宮に到着した。十郎左衛門は二日遅れたが、一行は首尾よく代参をすませた。

伊勢に四泊して二九日に出発。伊勢街道から東海道に出、桑名の渡しは利用せず陸路佐屋街道を回った。途中久能山に参詣し、鎌倉にも回って江ノ島に宿をとった。安政六（二八五九）年に開港し、その異国情緒から行楽地ともなっていた横浜も船を雇って見物した。一四日に江戸に着き、五泊した。大乘院宮の画を表装したり、買い物をしたりして、寄席も楽しんだようである。江戸は一九日に発ち、日光を見物して日光北街道をたどった。奥州街道を下って十一月一日、九ツ時（正午）岩出山伊達家の仙台屋敷に到着した。この日、桂五郎は土産などの不足分を購入している（表6）。

翌二日には岩出山に着いた。役目を果たしたことについて使いがあり、登城して吸い物と酒を頂戴した。十郎左衛門は竹雀の紋付と肩衣を拝領し、土産として紫甲斐絹を献上している。桂五郎の献上物は表7に記されている。桂五郎は帰着祝いの宴会用であろうか、四日に肴類を買い求めている（表6）。

全体を通して見ると、この旅は主命による公用の旅ではあるが、ひたすら目的地を目指して往復した旅ではない。経路を大きく外れない程度の周遊を取り入れ、庶民の伊勢参詣

と同様に社寺参詣や名所旧跡・芝居見物なども加味している。旅は学習と娯楽の場であるという現代に通じる旅の価値観は、旅が盛んになった江戸時代に定着している（「お伊勢参り」）。公用に便乗した事実上の私的旅行も許されることがあったのである（「みちのく街道史」）。

四 経費

「手扣」に記されている経費は桂五郎個人の旅費（表1）と餞別（表2）、土産である。土産に関わる内容は、自分物（表3）、調物所（表4・5・6）、献上物（表7）、費用調（表8）、購入先（表9）で、他に帰着後受けた祝いの金品である下り後見舞い物（表10）、貸借精算（表11）が記されている。「手扣」に書き留められたのは経費のみで、道中の景色やその感想などの記述はない。従って「手扣」はいわゆる道中日記や道中記ではない。公費と私費との区別を明確にする、返礼を忘れないなどの目的で記帳したものであろう。

国井十郎左衛門は旅に先立ち「御内証」から金五両を下された。七右衛門、桂五郎も同様であろう。旅費は知行高や俸禄の大小を基準にあらかじめ定められた所用日数で支給される（「みちのく街道史」）ことになっていたが、この五両が正式の旅費かどうかは分からない。この頃、岩出山伊達家は藩に納めるべき役金などの延納を願い出るなど非常な財政難であった（「町史上」）。旅費の支給はそのような状況の中では大きな出費のはずである。借入金による支給は当然考えられる。それにも拘わらず伊勢参詣を命じたのは、直系男子の家督相続ができることになった邦直の大きな喜びと、伊勢神宮への強い崇敬の念があつ

たからではないかと思われる。

桂五郎の饒別の合計は金二七切六歩八厘八毛で九〇先から贈られている。その内容は金一両から錢一〇〇文、安全札まで多様である。最も多いのは錢二〇〇文で約三分の一の二九先である。銀貨は使われていない。「疋」は、かつて絹を通貨とした時の単位である。進物に金を贈ったことをあからさまに表現するのを避けたのであろう。知行高や職業による多寡は見られない。

桂五郎が準備した経費の総額は金一四五切五歩で、内八〇切を京都で為替金として受け取り、六五切五歩は現金で持参した(表5)。現金は金貨または銀貨で、少しづつ錢貨に両替をしながら支払いをした(「おかね道中記」)。両替は旅先の宿や両替商などで行ったが、相場は一定していなかった。「手扣」に記された金額から計算しても、金一両が錢六貫四〇〇文であったり六貫六八八文であったりしている。両替には配慮を要したであろう。

旅費の総額は金で三三切七歩三厘三毛、錢では五三貫九七六文である。その内訳は、旅籠代、昼通り(昼食代)、遣捨り(使い捨て人足代)、小遣い、送料(荷物下し賃錢)である。旅籠代は、江戸・江ノ島の銀貨での支払い分四九匁八歩と片はたこ(素泊まり)分一五〇文を除いた錢貨支払い分の総額が七九匁二分二貫五四一文で、一泊平均約二八五文である。江戸ではこの他に麻布での賄料一六日分金一步代一七八文を支払っているが、宿がどこかは分らない。なお、江戸菰豆屋の一四日分の旅籠代は後で七右衛門から返金されている(表11)。菰豆屋は一泊銀三匁二歩で銀一匁を錢一一一文の相場とすると約三五五文であるが、江ノ島桔梗屋は一泊銀五匁で錢では五五五文となり非常に高い。江ノ島は突出した観光地だったのだろうか。昼食代は七三回分で総額は五貫三一五文、一回平

均約七三文となる。人足代は四二日分一貫五一八文、一日平均約三六文である。一日に八文から八四文と幅が大きいがその理由は分らない。小遣いは、草履や杖、雨具、葉などの旅行用品、船錢・渡錢、名所の案内錢、茶菓子、髪結い賃、その他に支払われている。歩きを原則とする長い旅の姿が見えてくる。

買い物などの荷物を国許に送る際は大手飛脚問屋京屋を利用している。京都からの荷物の重さは一貫四一〇匁（五・二八七五キログラム）あり、送料は重さ一匁に付一文六歩七里一毛で代は二貫三五六文であった。桂五郎は十郎左衛門分も合わせて金二分を支払っている。往路の江戸からは桂五郎の二二五匁を含め四人分をまとめて送っているが、桂五郎は送料を出していない。復路の江戸からの送料は金二歩一朱代六四文であった。道中の費用の送金について十郎左衛門は仙台的奈良屋で京都の本店に「金子為替取組相頼証書」を持参する手続きをし、桂五郎も「奈良屋江為替金安積権兵衛方へ相渡」し、前述のように金八〇切を京都で受け取っている。整った物資輸送システムと送金システムが機能しており、これも江戸時代の旅の利便性を高めた要因の一つであろう。

土産の自分物には自家用の品と購入依頼の品があり、自家用二四品目の内一七品目は絹織物を主とした衣料品で、他は雑貨である。調物所は賤別の返札や進物、購入依頼品などである。返札や進物は、錦絵や短冊、扇などの安価、軽量な物が主である。他はやはり絹織物が大半を占める。購入依頼品も同様である。多くの人が地元では入手の難しい高級な絹織物を望んでいたのであろう。返札、進物の調物所の品目は九八品目になり、自分物と調物所の購入依頼品二三品目、献上物の一三品目を加えると一三三品目に及ぶ大部の買い物である。そのための支出は合計が記されている表5・6だけでも金八九切四歩三厘三毛

で、餞別総額の金二七切六歩八厘八毛も旅費総額の金三三切七歩三厘三毛をも大きく越える。一面、買い物のための旅にとも言える。これだけの金額をどのようにして準備したのであるか。武士の私的な旅は厳しく制限されていた（「みちのく街道史」）中での二度とない機会である。桂五郎も借入金に依らざるを得なかったのではないかと考えられるが、具体的にどう工面したかについては不明である。

下り後見舞い物（帰着祝い）としては、銭一貫八〇〇文の他、魚貝類が多く贈られており祝宴用と思われる。中に祢宜というのがあるが、これは「ネギ」で、ねぎらしい意を表したものであろう。

表12は、餞別、自分物、調物、献上物、下り後見舞い物に記された人物名を抜き出し、その身分や役職などを特定したものである。特定は主に「町史文書資料八」「岩出山の幕末維新」に依った。

人物を類別してみると、まず邦直とその家族（天寿院様御初御惣容様、御子様方）がいる。次に、仙台藩準一家が一名、御局と奥女中が合わせて一二名である。桂五郎と同じ侍通は、医師を含めて四五名である。侍通と思われるが特定できなかった者も加えると六〇名と「勘定処」一カ所になる。「町史文書資料八」では岩出山伊達家中の侍通を計一二四名としており、同じ侍通のほぼ半数と付き合いがあったことになる。侍通以外の家中は大番組三名、徒組四名、長柄組六名、口取二名で、長柄組の半数は金上侍である。家中には足軽組や弓組、小人組、餌差組もあるが、これらに所属する者は特定できなかった。この他、村役人及び村役人と思われる者九名、門番と馬笠各一名がおり、以上は桂五郎の役職と関わる付き合いと言ってよい。商人と町人が二〇名いるが、これも多くは役職との関係

が推測される。また、僧侶、神主、山伏が各一名、親戚が二名おり、さらに桂五郎の家族や知人と思われるものの不明が五名である。全体を見ると、賤別や帰着祝いは大部分が身分と役職との関係においてなされている。家格や職による金額の違いは見られない。この付き合いの範囲は、慶弔など贈答を要する中嶋家の交際の範囲とも重なるものと思われる。

五 中嶋家

中嶋家文書の内容は「手扣」の他に、由緒関係が七点、知行高関係が六点、用水路関係四点、北海道関係二点（既公開）、その他九点である。

由緒関係の中の「先祖書上」によれば、中嶋家の初代宮内左右衛門は「苔岩様（宗泰）江被相附篠生より御供仕罷越候由承傳申候」とあり、岩出山伊達家の初代当主宗泰の代からの家臣である。この中の「篠生」は福島県信夫郡であり、伊達政宗の旧領である。政宗は天正一九（一五九一）年、葛西大崎一揆平定の後、豊臣秀吉の転封命令によつて信夫郡をはじめ本領を没収され旧葛西大崎領を新給された。宮内左右衛門は政宗に従つて信夫郡から戦いに加わり、その後岩出山に置かれたものと思われる。宗泰がいつ岩出山に入ったか記録はないが、岩出山城を与えられたのが慶長八（一六〇三）年なので（「町史」）、宗泰に「篠生より御供」は考えられない。「承傳」は、政宗に従軍しその後宗泰に付けられたことを伝えている。この時の宮内左右衛門の知行高は二貫四〇二文であった。「町史」には、「宗泰岩出山到着後合流した者・家臣となつた者」の中に中島治郎八、「宗泰へ附臣の家臣」の中に中嶋久作が記されているが、宮内左右衛門との関わりは分からない。

同書上は、二代弥惣右衛門、三代十左衛門重成、四代同茂往、五代同茂行と続き、六代又三郎茂久による文化五（一八〇八）年の報告までが残っている。なお、又三郎の時に浦小路から上川原町に住居替となっている。文化一一（一八一四）年から文政七（二八二四）年までの知行高、用水路関係文書の宛先は中嶋軍太夫となっており、七代目は軍太夫である。八代目は「岩出山伊達家中録」（『町史文書資料八』）にある「侍通、二貫五〇〇文、中嶋十左衛門」である。この八代目十左衛門については、中嶋家墓所（松窓寺境内）の墓標でも確認されている。

六 おわりに

「国井家記録」と「手扣」を基に、江戸時代末期の武士による伊勢京都道中を具体的にたどってきた。その旅は公用の旅であると共に、一生に一度の大事業であり、見聞を広げる旅、買い物の旅でもあった。旅に関わる贈答を通して、岩出山家中の交際の一端を見ることもできた。この点は、岩出山家中の武士の暮らしの中でもこれまであまり触れられていない側面ではないかと思われる。分からないことも多く、特に各個人毎の経費の工面については全く不明である。各家の経済面はこれからも追究しなければならない視点ではないかと考えている。

中嶋家は、最近、知行関係、北海道関係などの新たな文書を公開した。その中には冷泉家から頂戴した短冊も含まれている。これらを基に、今後、岩出山伊達家中の姿がより具体的に明らかになっていくものと思われる。

表1 行程・旅費

月	日	行 程		旅籠代	昼通り	遣捨り	小遣い・荷物下し賃銭等	
		泊 地	宿 名	銭 (文)	銭 (文)	銭 (文)	品名等	銭 (文)
7	29	発足	吉岡駅泊り	270	95	100	酒肴代	865
							塩釜絵図	100
							代参料	33
							草り	130
							種物調代	300
							よりひん付	15
							庄婦ちん	100
							てうちん	17
							粃2袋	100
							小落かん	200
							へんとう	148
							琉球表分	117
8	1	(～5日) 御屋敷ニ而滞留						
	6	発足 岩沼	渡邊屋六左衛門泊	280	25	35		
	7	白石	嶋屋彦兵衛	300	15	33		
	8	福島	下総屋勘兵衛	300	桑折 20	22		
	9	本宮	渡邊長兵衛	300	32	20	油紙之分	95
	10	矢吹	長沼屋弥左衛門	330	48		杖1本	60
	11	芦ノ	丁子屋吉兵衛	300	55	40		
	12	喜連川	高城屋彦兵衛	340	40	24	越堀フナ橋せん	36
							鍋掛舟せん	29
							佐久山舟せん	36
							赤玉6袋	100
	13	同所ニ而病氣滞留		300	50	35	大白1袋	50
							薬代	67
							馬士へ泊代	36
	14	雀宮	戸笠屋五郎右衛門	280	81	48		
	15	古河	田中屋久兵衛	300	71	72		
	16	越谷	とら屋伊八郎	350	79	50		
	17	江戸着	かり大豆屋茂右衛門	銀44匁8歩 但し3匁2歩 之日数14泊ノ分			草り	300
					100		足袋	340
							髪結ちん	312
	18						□酒代	527
	19						18・19日かん鍋 等2日分	599
	20	(～30日)			168			
閏8	1	(～16日朝まで)					麻布ニ而賄料代	金1歩 代178

	16	永坂発足中仙道通り						
		大宮	梅元屋四三郎	362	100	50	婦し1本	170
	17	熊谷	小松屋新三郎	250	48	32		
	18	倉かの	菅屋喜太郎	324	80	80		
	19	松井田	米屋喜八	324	64	24		
	20	岩村田	日埜屋左忠二	372	70	84		
	21	同駅へ滞留		372	186	8		
	22	和田	米や鉄五郎	350	48	36		
	23	塩尻	福地屋善助	250	40	20		
	24	奈良井	徳利屋善右衛門	300	12		杖木	200
	25	上松	白木屋五左衛門	272	36	48		
	26	妻籠	越後屋治郎兵衛	250	12	45		
	27	大久手	吉の屋源蔵	250	30		平五郎へ遣ス	400
	28	う沼	野口屋定兵衛	250	36			
	29	赤坂	中屋八十助	232	38	17	根付茄子	100
9	1	高宮	玉屋源内	300	48	64	根付調代	100
	2	守山	小間物屋利兵衛	250	50	35		
	3	坂元	かミヤ五郎兵衛	250	52	30		
	4	京都	五條橋より東二丁目	282	46	15	比叡山案内せん	100
			萬や新九郎				清水寺	100
	5		扇屋正七					
	～							
	8						六角堂初見物案内 せん昼通り	469
							北ノ守札	24
							吉田ノ守札	36
							月代	32
	9			1,590	但し5日より11 日迄6泊分		かかみ1面	220
	～				3日分 400		茶代小遣	84
	11	橋元	亀屋吉二郎	280	45			
	12	大坂	松屋源助	825	但し275文二而3 泊分		舟せん	100
					50	16		
	13						柴(芝)居見物諸懸	1,034
							案内せん直渡し諸 懸り	152
	14				200	50	京都より諸品下り へちんせん	金2歩
							国井氏よりも移す	
							鮫1本	〃1両
							〃佐藤分	〃1歩

							自分物 3日勘定 足ス	〃 3歩
	15	和泉 福町	河内や武兵衛	250	54			
	16	高野々替 か称	中ノ虎二郎	250	116			
	17	橋本	河内や治右衛門	280	94	29		
	18	大和ノ国 上市	畳屋与助	250	36	48		
	19	八木	木原や加右衛門	250	50	21		
	20	郡山	花内屋忠兵衛	300	56	24		
	21	桜井文龍方ニ而滞留				62	案内せん	32
	22	柳元	吉野屋傳兵衛	230				
	23	伊賀国(新田)	井筒(屋)孫左衛門	250	53			
	24	六軒	小津や喜右衛門	250	50			
	25	伊勢内宮着			60			
	～							
	29	発足 松坂	米屋善右衛門	片はたこ 150			伊勢ニ而之茶代等	200
	30	神戸	八百や庄七	250	127			
10	1	佐屋	川口や友七	230	48		船せん	177
	2	鳴海	松坂屋伊三郎	250	64			
	3	三州 藤川	鍋屋松二郎	250	75			
	4	新居	高須賀屋安兵衛	272	100			
	5	袋井	永や又三郎	250	66		新井 船せん	53
							天龍川渡せん	40
	6	岡部	亀屋清吉	264	71		大井川渡せん	228
	7	興津	小清水や新右衛門	272	75		阿部川渡せん	45
							久能山案内せん	120
	8	蒲原	宮屋平吉	282	150	26		
	9	伊豆 三嶋	藤屋二郎右衛門	300	52		藤川渡せん	27
	10	小田原	小いせ屋佐兵衛	324	113			
	11	江の島	桔梗屋十郎兵衛	銀5匁	73			
	12	神奈川	茅木屋弥市右衛門	300	75			
	13	川崎	濱屋吉十郎	324	100		横濱船せん	124
							案内〃 (せん)	75
	14	江戸着	さつ手屋弥太郎		78		はか談	100
	15							
	16				50			
	17						衣裳方	40
							鏡縮女帯地1本	銀98匁
							文内仕立ちん	100
							髪結ちん	32

	18						小遣	16
	19			1,620	但し 14 日夕より 19 日迄 5 泊 リ 324 文ツゝ		竹皮籠ニ□□へ買	515
							京屋へちん銭なり	金 2 歩 1 朱 代 64 文
		越谷	勢高屋萬治郎	324	56	28		
	20	野木	三河屋惣左衛門	324	60	28		
	21	宇都の 宮	手塚屋五郎兵衛	350	40	36		
	22	日光	紙屋半兵衛	300	88	24		
	23	船生		250	140		日光山案内銭	100
							小遣代	58
							役せん	36
	24	市の澤	和泉屋平左衛門	280	20	16	柿 7 数	100
		大田原より 1 り半手前						
	25	太田川	角屋清八	300	72	34		
	26	元宮	和泉屋正助	300	56	46	ケヌキ袖直し	72
	27	福島	下総屋勘兵衛	300	110		火打 1 ツ	34
							髪結ちん	32
	28	宮	佐藤屋久四郎	280	67	13	孫太郎虫 10 束	150
	29	岩沼	斉藤屋利右衛門	300	88			
11	1	九ッ時御屋敷着			62			
		直し代 53 貫 976 文						
		33 切 7 歩 3 厘 5 毛						
		右者道中通り旅籠代并小遣荷物下しちんせん迄高						

表2 餞別所

土産 メモ	金 高			品 名	差出人
	金		銭		
	両、分、朱	疋	貫、文		
	金 27 切 6 歩 8 リ 8 毛				
	内				
	0, 0, 2				牛坂養蔵
	0, 0, 2				川内ヨリ
タン冊				道中安全札	満学(覚)院
〃	0, 0, 1				中田尉之進
○			200		阿部禎之進
紐			400		本町 九平太
			100		松岡留治
○			100		高橋直衛
○			200	手拭 1 本	早坂定之進
○			100		葉田ノ三太由
紐				道中掛守	完(矢) 戸兵庫
○			200		下郡山弥五左エ門
	1, 0, 0				内ヨリ
	0, 0, 2				同
			400		菅亀松
砂		100			高橋屋 友治
紐 扇	0, 0, 1				油屋 久右エ門
			200		御口取 永助
				三拾数折 5 帖	油屋 久右エ門
○			100		君袋主計之介
○			200		肴屋 忠作
○			200		大内喜馬太
○			200		小野儀右エ門
	0, 0, 1				石サキ屋 東七
紐 扇	0, 0, 1				大泉謙吾
○			200		喜健都
○			200		國井市右エ門
			200		御口取 清松
紐			400		梁川玄篤
	0, 0, 1				安積権兵衛
			800		芳賀文之進
		200			頂戴
風		50			宮本吉兵衛
			300		高橋弥兵衛

○			200		曾根半之丞
○			200		渡邊友衛
○			200		松村市之丞
○			100		小館三積
○			100		松岡友太夫
			300		御豆婦屋 長四郎
タン冊			200		名取屋 甚三郎
〃			200		肝煎 甚吉
紐 扇 1	0, 0, 1				菅野丹弥
紐 扇 2	0, 0, 1				本町 吉次
紐 扇 1	0, 0, 1				大内喜右エ門
紐			400	手拭 1 本	牛坂幸三郎
○			200		南沢村 十之助
砂			400		阿部林エ門
風	0, 2, 0				鹿ノ屋 永治
		100			笠原元次郎
			200		六十人町 佐仲
扇 1 白			200		廣議
			200		お悦
			200		お市
扇 1 白			1,000		奥女中 10 人
紐	0, 2, 0				遊佐甚之允
紐 扇 1	0, 1, 0				宮元与十郎
紐	0, 2, 0				米倉一角
			200		永根茂左衛門
○			800		大内志止見
○			400		門崎左司馬
○			200		福田永三郎
紐 扇 1			400		我妻謙吉
タン 半	0, 2, 0				阿部東安
風		100			後藤吉右エ門
	0, 2, 0				菊田源兵衛
○		100			西川
○		400			佐藤
○			200		上ノ快永
タン○			200		御飯屋 茂兵衛
風			600		伊藤屋 又右エ門
紐	0, 1, 0				松村継齋
紐 扇 2	0, 2, 0				佐々木清介
	0, 1, 0				山口与右エ門

					藤田周之介
					白井十右エ門
○			200		赤沼源之進
			100		長屋 音四郎
				三拾折 2 帖	永根左源太
紐 扇 2			400		山中健三
			100		宇和ノ治部之介
○			200		畠甚左エ門
紐 扇 2			400		小ノ省八郎
○			100		大内嘉右エ門
紐			800		石川久馬
○			200		館内多門
○			200		下町 久四郎
○			100		柳町 傳吉
タン扇 1			100		大（載）行院
○			200		猪狩縫殿之介
紐 扇 2			400		荒谷朝之助

表3 自分物

品 名	数 量	依 頼 者
スキヤ織一重地		
紫チリメン形付 但し小模様成ル品	3 尺	
紅キヌ	4 尺	
子ツミカイキ (鼠甲斐絹)	4 尺 5 寸	
紫縮メン 但シ大幅ニテ	6 尺	
緋チリメン 但シ小幅ニテ	8 尺 5 寸	
紫縮メン形附 但し大幅ニテ千代帯	1 丈 2 尺	
八丈半襟	3 ツ	
ムラサキ縮メン男コシ帯 但シ小幅	4 本	
コロウ男帯 但シ 80 色	2 本	
物タチ	1 挺	
角カ、ミ	1 面	
アサキコシ帯 但シ自分用	1 本	
紫チリメン形付 但し小幅ニテ	9 尺	
サラシ帷子地 但シコンカスリ大模様	1 反	
目羽織地	1 反	
コハク帯地 但シ男モノ	1 本	
紫縮メン 但シ小幅コシ帯地	1 本	
右ハ金 1 歩請取		米倉一角
栃葉羽織紐	1 本	
アサキ同	1 本	
右ハ金 1 朱請取		永根茂左エ門
茶縮メン 但シ小幅ニテ 1 尺 1 寸位	金 1 歩分	
右ハ金請取		於利久
黒琥珀女帯 但シタン織	1 本	
右ハ金 1 両ト當 116 文請取		下郡山弥五左エ門
鯨	金 1 歩	
右金請取		佐藤伯父
狸金玉	1 ツ	
ヒヤホン	1 ツ	
外国繪	5 枚	
横浜繪図	1 通	
山本山 但シ唐木屋七兵衛店ヨリ	1 斤	
書状	1 通	
金 15 両添 但シ伊勢屋へ届別紙請取証有		
同 1 両也 但シ諸品調金		
右ハ金請取		鹿野屋 永治
金 1 両 但シ国札ニテ 8 月 26 日ニ相渡ス		
代 3 貫文		右ハ 山内萬三郎
美雪香白粉 但シ山内萬三郎下リノ時	400 文價	右ハ 御前様方
花アヤメ種		
紫縮メン山前 但中幅	3 尺	右ハ 於市
水天供守札	1	
コロバス (ヌカ) 守	3	右同人
黒柄糸 但シ五分糸 干物丁大黒屋	刀分 1 本	
右ハ金 1 歩 2 朱		松村市之丞
ナマコ地女帯		
緋チリメン 但シ小幅	7 尺	右ハ 浦小路ヨリ
鯨 但シ丸サメニテ 1 本	金 1 両	高野恒之進

表4 調物所－①

品 名	数 量	依 頼 者
塗師ハケ 但し本通し	3 枚	
内 1 寸 2 分 右ハ半々可ッテ (勝手)	2 枚	
1 寸 6 分 但し同断	1 枚	
京大佛前 大黒屋庄兵衛より		右ハ千葉祐五郎ヨリ
伐出シ小刀	1 挺	右ハ関惣十郎ヨリ
分サシ	1 本	
丹波守吉道小刀	1 挺	
右ハ金 1 朱請取ル		猪狩永之進ヨリ
緋チリメン 金 3 歩 1 朱分		
但し小幅ニテアサノハ形付カノコ形付ノ内ニテ		
右品 11 月 9 日相渡ス	右ハ金請取ル	菅野丹弥ヨリ

表5 調物所－②

金 高			品 名	数 量
金	銀	錢		
両、分、朱	匁、分	貫、文		
0, 2, 1			足利	1 反
1, 0, 0	3, 0		スキヤ	1 反
		400	美雪香	4 袋
			但し閏8月16日山ノ内下リ	
		100	二一天作	1 冊
	6, 0		山本山	1 斤
		256	横浜繪并外国人物	
		100	赤玉	1 袋
			但シ8月30日京屋へ相出ス	
0, 3, 0	3, 5		鉄色合羽	
1, 0, 2			鉈鉈入	1 ツ
		200	木谷ニテしおり	
		200	石ノ根付	2 ツ
0, 0, 1		12	京都繪図	
0, 2, 2			羽織紐	20 本
0, 0, 1			同	2 本
0, 1, 0			大丸 小紋紋	1 丈1 尺
0, 1, 0		256	緋ちりめん	7 尺
0, 1, 0			紫ちりめん小前	3 尺
0, 1, 1			本天合羽ゑり	
	55, 1		紫ちりめん小巾	2 丈4 尺
	21, 8		緋ちりめん小巾	8 尺5 寸8 歩
	5, 4		紅絹	4 尺
0, 3, 2			緋帷子	1 枚
		236	白足袋	1 足
		600	袴もん料	
		100	菓子料	
		1,140	羽織紐	3 本
		220	鏡	1 枚
		1,000	6 寸鏡	1 枚
	3, 0		塗師はけ	1 枚
✂ 金34切3厘3毛				
金145切5歩也				
内 同80切也 奈良屋江為替金安積権兵衛方へ相渡ス				
但シ9月6日岩井儀兵衛より請取ル				
同65切5歩 道中道より江戸迄持参金				
内 金1朱 山ノ内へ貸				
同1両 右同人貸				

表6 調物所-③

メ モ	金 高			品 名	数 量
	金	銀	銭		
	両、分、朱	匁、分、厘	貫、文		
12文5歩			625	短冊	50枚
7文5歩			375	〃	50枚
			45	〃	10枚
			40	〃	10枚
			800	扇	40本
				但し5本分	
		15, 6, 0		紫ちりめん	3尺
	0, 3, 1			緋	9尺5寸
		2, 0, 0		紋入ちん	
	0, 2, 3			晒	1反
		27, 0, 0		浅キちりめん形付	8尺2寸
	0, 1, 2			黒ちりめん	5尺
				但し安積分但し合物	
			375	短冊	30枚
				但し同断	
			664	白扇	20本
				19日金3朱 此代1,200文請取指引ぶん	
✂			1,039		
			248	はふむ丸	10本
			322	茶生	10本
			664	女扇	20本
大坂			350	見幣糖	1箱
〃			50	袴袋	1つ
淀			250	物立	1枚
大坂	1, 0, 0			鮫	1本
〃	0, 3, 0			同	1本
〃	0, 1, 0			同	1本
			100	吉のたら尼助	
柏木			490	長命莢	2ツ
			100	驚々丸	7袋
		16, 6, 4		文内	1丈4尺
三河			117	ふくへ	2ツ
	0, 1, 2			鳴海絞り	1反
	0, 1, 1			水晶眼鏡	1枚
			474	〃根付	1ツ
			300	〃鯖✂	2ツ

横濱			500	玉笛	1 ッ
			200	ヒヤホン	1 ッ
		8, 0, 0		横濱繪図	1 枚
				但し自分物	
			100	同	1 枚
13 日	1, 0, 0		代 50	飾五市	1 丈
”	0, 2, 2			カバ色	8 尺
”	0, 0, 2			紫五市 きれ	
✂					
14 日			280	墨	10 挺
”			36	朱墨	1 本
✂				硯	1 面
三井 15 日		10, 9, 0		鼠浅キ	4 尺 5 寸
		9, 4, 0		呂八丈	7 尺 5 寸
		8, 7, 5		風呂敷	5 ッ
		4, 9, 0		半えり	1 ッ
		4,9,0		”	1 ッ
		5,0,0		”	1 ッ
		4,9,0		”	1 ッ
		18,4,0		しほり金巾	半反
✂					
” 15 日			392	雪駄	1 足
16 日			600	八枚口錦繪	48 枚
			100	江戸名所	24 枚
			200	名所大繪	12 枚
				但し七枚口	
			300	外国繪	21 枚
			500	ひん付	20 本
			424	白竹	17 袋
			132	白粉	4 袋
			404	こん足袋	1 足
			100	かせ	15
			600	小皿	20
		12, 0, 0		山本山	2 斤
		12, 0, 0		喜せん桐箱入	3 ッ
			60	袋	13
✂					
17 日		98, 0, 0		黒琥珀女帯下郡山分	
”		3, 0, 0		木刀猪狩分	1 本
”			200	きり出し関惣十郎	

”			50	はさみ	1 挺
”			850	巾着	2 ツ
18 日		2, 9, 0		前懸りきれ	1 枚
”			210	木綿足半えり	3 ツ
”			600	雨天	1 本
19 日			50	木札	4 枚
”			5	いと	1 本
”			60	は縄はり	
			376	黒砂糖	2 斤
			200	白砂糖	
		4, 5, 0		山本山半斤入	3 ツ
御城下			200	なんきん	3 枚
			137	脇指	
			330	御稜箱	10
			770	小稜	110 枚
			300	錦繪	24 枚
			146	風呂敷之俵合物高野江之進物	
ㄥ					
			400	白砂糖	2 曲
			50	右曲物折	
			400	塗香	20 本
			100	きん出し	3 箱
			245	小箱	7 ツ
			39	茶袋	3 枚
			20	砂糖入袋	3 枚
			400	より	20 把
			100	留蔵へ泊	
4 日			67	いも	
			150	はくり子	
			135	筋子	
			90	田作り	
			267	ぎりこみ	
ㄥ					
			200	金頭	10 本
			400	錦繪	28 枚
ㄥ 直し 55 切 4 歩 2 毛					

表9 購入先

購 入 先			
京都松原通り御幸町角	呉服店	大文字屋店	栄助
大坂高麗橋二町目	鮫店	能登屋	佐兵衛
泉州堺妙国寺前	金物店	かぢ本	久右衛門
江戸通油町	同	すみや	七左衛門
下総古河		小倉屋	紋三郎

表7 献上物

品 名	献上先
瀬戸盃三ツ組1箱	殿様へ
短冊30枚	
北野天満宮御守札	
唐崎の松之絵図	
半えり5枚	天寿院様御初御惣容様
清水観音之御符守	
せん子3本	
御手遊小箱4ツ	
数スの守	御子様方へ
白粉1袋ツ、	
ひん付2本	
より1把	
ぎん出し1箱	広瀬お市へ
白粉1袋ツ、	
ひん付2本	
より1把	
	惣女中拾人江

表8 費用調

項 目	金高等
江戸表より下し物費用調	300 匁也 田中分
	235 匁 村上分
	640 匁也 国井分
	215 匁 中島分
	1 貫390 匁也
	外ニ
	110 匁也 風袋迄
京都より下し物費用	1 貫410 匁
	此代2 貫356 文
	但し1 匁ニ付1 文6 歩7 厘1 毛ツ、
費用調高	450 匁 扇
	960 匁 諸品
	1 貫410 匁也
土産物之見詰	100 文へハ錦絵3 枚
	200 文へハ扇1 對
	400 文へハひも1 本
	800 文へハ
	1 貫600 文喜撰1 箱太白1 つ箱御数
	300 文

表 10 下り後見舞物

品 名	数 量	差出人
濱くり	1 俵	阿部源四郎
生貝	10 ツ(ママ)	小野省八郎
生貝	1 俵	御門番 佐藤清助
濱くり	1 俵	中町 忠作
清酒	3 升	菊田源兵衛
すゑ		浦小路 御伯父様
代 200 文		岩渕善太郎
代 100 文		御馬笠 徳之丞
400 文		大口村 久兵衛
生貝	1 俵	四分間屋より
六ノ魚	2 俵	遊佐甚之丞
店子	3 ツ	本町 吉治
満ん頭	40	村上源右衛門 鈴木雄藏
するめ	3 把	蛭澤はつ
清酒	8 升	宮本吉兵衛
鰯	1 俵	千葉廣治
ほら	4 本	菅谷七郎右衛門
店子	3	横尾喜兵衛
大貝	3 本	長四郎
木材	3 本	
大貝	8 本	忠作 久右衛門 喜三郎 久四郎
かれい	2 枚	九平太
店子	5 ツ	
醤油	2 升	伊藤屋又右衛門
小きれ		高橋屋 友治
大貝	3 本	鹿野 栄治
鯉節	1 連	名取甚三郎 大内甚吉 伊藤茂兵衛
生貝	7 ツ	小野儀右衛門
六ノ魚	1 俵	中町 忠吉
満頭酒	1 鍋	梁川玄篤
酒	2 升	菊田源兵衛
400 文		遊佐平八郎
店子	10	御勘定處より
祢宜	6 本	大口村 久兵衛
代 500 文		鳴子 善十郎
濱くり	10 俵	南澤村 仁右衛門
氷豆婦	10 懸	喜健都
氷豆婦	10 懸	加藤久七
祢宜	1 俵	上一くり 善左衛門
小刀	1 本	新井隆太郎
鯉	3 本	遊佐平八郎
すゑ	3 本	大泉謙吾
祢宜	2 本	上遠野様より
すゑ	5 本	濱路
200 文		大口村地肝入 甚兵衛

表 11 精算

貸 借		
10月18日	金10切也 但シをりちん代42文相渡	国井より借用
	此内	
19日	〃 4切5歩8厘3毛 直し代130文	くり綿之分1貫50匁村上へ相渡ス
〃	〃 2切5歩	見物之分国井氏へ返済勘定之分
11月3日	手形50切也	文之進より借用
	但し牛坂より手形40切下し金へ自分之金七分三厘返済	
	内	
	〃 24切	国井出分
	〃 26切	自分
	〆	
11月4日	手形25切 但し27日返済	高野より借用
貸付分		
	金1切5歩 但し鏡沼菅共不足分	藪山へ貸ス
	〃 1切 代256文	浦小路へ貸ス
		山内萬三郎へ
	金1両3歩 但し伊藤先生より借用	
	〃 2両3歩	自分
	〃 1朱〃	同断
	〃 1両〃	同断
	〆	
	内	
	八丈島反物 1反	
	〃 胴衣綿入 1ツ	
	黒布衣紋 1ツ	
閏8月1日	金20切也	村上より請取
	但しかり豆屋茂右衛門へ旅籠代勘定相成候ニ付如此	
	内	
	銀179匁2歩 但し8月17日より閏月1日 朝迄	村上 国井 中嶋 田中
	〃 89匁6歩	平五郎 留蔵
	〃 6匁4歩	佐善坊共泊り
	〆銀275匁2歩	
	金4両2分 577文	
	外ニ	
	金1分	茶代
	〆19切 代577文	
	指引ざん	
	金2朱 259文	
	閏8月6日勘定村上へ相渡ス	
		資房

表 12 記載人物

記載表	名 前	職 等
表 7	殿様	
”	天寿院様御初御惣容様	
”	御子様方	
表 10	上遠野	準一家
”	濱路	御局
表 2	お市	表 7 広瀬お市へ
”	奥女中 10 人	” 惣女中拾人江
”	中田尉之進	侍通 1,026 文
”	阿部禎之進	” 4,440 文 四番座
”	松岡留治	” 2,000 文
”	早坂定之進	” 2,622 文 切米 3 切
”	葉田ノ三太由	” 3,046 文 五番座
”	下郡山弥五左エ門	” 3,398 文
”	菅亀松	” 1,763 文
”	國井市右エ門	” 4,563 文
”	安積権兵衛	” 5,129 文 永代御家老席
”	芳賀文之進	” 1,500 文
”	曾根半之丞	” 2,400 文
”	渡邊友衛	” 1,516 文
”	松村市之丞	” 799 文
”	菅野丹弥	” 4,071 文 四番座
”	大内喜右エ門	” 1,400 文
”	牛坂幸三郎	” 2,000 文
”	米倉一角	” 818 文
”	門崎左司馬	” 3,863 文
”	福田永三郎	” 2,100 文
”	西川	” 重之助 1,500 文 重之輔 永代着座一番組
”	松村継齋	” 2,477 文
”	山口与右エ門	” 1,913 文 切米 1 切
”	藤田周之介	” 1,300 文
”	白井十右エ門	” 4,306 文
”	永根左源太	” 3,000 文 永代御家老席
”	山中健三	” 健蔵 2,875 文
”	宇和ノ治部之介	” 4,229 文 四番座
”	小ノ省八郎	” 5,840 文
”	大内嘉右エ門	” 2,530 文
”	石川久馬	” 2,757 文
”	猪狩縫殿之介	” 5,588 文 五番座
”	荒谷朝之助	” 1,123 文
”	後藤吉右エ門	” 1,840 文
表 10	岩渕善太郎	” 1,000 文
”	菅谷七郎右衛門	” 3,143 文
”	横尾喜兵衛	” 3,997 文

表 3	高野恒之進	”	2,224 文	
表 2	赤沼源之進	”	5,000 文	五番座 同姓 1 虎之輔
”	高橋直衛	”	4,050 文	四番座 直治
”	君袋主計之介	”	4,063 文	四番座 同姓 1 強助 郷輔
”	我妻謙吉	”	6,828 文	永代御家老席 同姓 1 五左エ門
”	畠甚左エ門	”	3,107 文	甚吉
”	牛坂養蔵			
”	大内喜馬太			
”	大泉謙吾			
”	松岡友太夫			
”	阿部林エ門			
”	宮元与十郎			
”	永根茂左衛門			
”	大内志止見			
”	佐々木清介			
”	館内多門			
表 4	千葉祐五郎			
”	猪狩永之進			
表 10	阿部源四郎			
”	千葉廣治			
”	新井隆太郎			
”	御勘定處			
表 2	梁川玄篤	御医師	3,185 文	着座一番座
”	阿部東安	”	3,000 文	
”	上ノ快永	”	3,934 文	着座一番座
”	高橋弥兵衛	大番組	500 文	
”	小館三積	”	1,127 文	円喜
表 3	山内萬三郎	”	1,000 文	
表 4	関惣十郎ヨリ	徒組	900 文	
表 10	村上源右衛門	”	1,044 文	
”	鈴木雄蔵	”	1,128 文	
”	加藤久七	”	無禄	
表 2	小野儀右エ門	長柄組	614 文	
”	宮本吉兵衛	”	1,150 文	酒造
”	名取屋 甚三郎	”	400 文	酒造
”	笠原元次郎	”	2,550 文	
”	伊藤屋 又右エ門	”	200 文	
表 10	小野儀右衛門	”	614 文	
表 2	御口取 永助	口取組	大場永助 675 文	
”	御口取 清松	” 口取組	675 文	
”	遊佐甚之允	大肝入 (岩出山町史)		
”	肝煎 甚吉	岩出山本郷		
”	南沢村 十之助	肝入		
表 10	遊佐平八郎			

”	大口村 久兵衛	仮肝入
”	鳴子 善十郎	
”	南澤村 仁右衛門	組頭
”	上一くり 善左衛門	
”	大口村地肝入 甚兵衛	
”	御門番 佐藤清助	
”	御馬笠 徳之丞	
表 2	御仮屋 茂兵衛	
”	高橋屋 友治	
”	油屋 久右エ門	
”	肴屋 忠作	
”	石サキ屋 東七	
”	御豆婦屋 長四郎	
”	鹿ノ屋 永治	表 3 鹿野屋永治
表 10	四分問屋	
表 2	菊田源兵衛	酒造
”	長屋 音四郎	
表 10	喜三郎	
表 2	本町 九平太	
”	本町 吉次	
”	六十人町 佐仲	
”	下町 久四郎	
”	柳町 傳吉	
表 10	中町 忠作	
”	中町 忠吉	
表 2	喜健都	
”	廣議	
”	満学（覚）院	寺高 1,500 文 家老次席
”	完（六）戸兵庫	神主 岩出山岩下 神明社
”	大（載）行院	修験 岩出山岩下小路
”	佐藤	表 3 佐藤伯父
表 10	浦小路 御伯父様	
表 2	内ヨリ	
”	川内ヨリ	
”	お悦	
表 3	於利久	
表 10	蛭澤はつ	

参考文献（刊行・発表順）

- 東溟伊藤先生遺稿編纂會「伊藤東溟先生遺稿」櫻井順藏、一九二四年
 高橋富雄『宮城県の歴史』山川出版社、一九六九年
 岩出山町史編纂委員会『岩出山町史上・下巻』宮城県玉造郡岩出山町役場、一九七〇年
 続「仙台人名大辞書」刊行会『仙台人名大辞書』仙台郷土研究会、一九八一年
 いわきたろう「伊勢参宮道中記」『いわき地域学習図書一五』いわき地域学會出版部、一九九三年
 「岩出山の幕末維新」『当別文庫八伊達邦直』当別町教育委員会、一九九六年
 高倉淳『仙台藩道中物語』高倉淳、一九九七年
 仙台市史編纂委員会『仙台市史資料編3』仙台市、一九九七年
 佐藤達夫「巡礼七十五日、六百里の足跡」『宮城史学一八』宮城歴史教育研究会、一九九八年
 石巻市史編纂委員会『石巻の歴史九』石巻市、一九九〇年
 渡辺信夫『みちのく街道史』河出書房新社、一九九〇年
 石巻市史編纂委員会『石巻の歴史二』石巻市、一九九八年
 渡辺和敏「近世豊橋の旅人たち」『二川宿史料集』一豊橋市二川宿本陣資料館、二〇〇二年
 桜井英治・中西聡編『新体系日本史二流通経済史』山川出版社、二〇〇二年
 仙台市史編纂委員会『仙台市史5』仙台市、二〇〇四年
 岩出山町史編纂委員会『岩出山町史文書資料八』大崎市教育委員会、二〇〇七年
 岩出山町史編纂委員会『岩出山町史通史編上・下巻』大崎市、二〇〇九年
 「仙台藩歴史用語辞典」『仙台郷土研究二八〇』仙台郷土研究会、二〇一〇年
 「企画展『おかね道中記』パンフレット」日本銀行金融研究所貨幣博物館、二〇一二年
 鎌田道隆『お伊勢参り』中央公論新社、二〇一三年

